

第四号

けものうと松目と遊光とわが板屋

鶴沼



鶴沼中

昭和二十二年三月二十三日

鵜沼五十年

伊藤 昌

歴史は興隆と衰退とのくり返しである。私達は思っている。しかし、誰も自分達が興隆の中に生きていると言いつけるだけの自信はないし、さりとて、衰退と思いこむには寂しすぎる。

なにが興隆であり衰退であるかはつきりとした定義もないかもしれない。かつて都市の興隆を誇示するバロメーターは人口であった。今はそんな事を考えている人間は一人もいない。東京もニューヨークもロンドンもむしろ精神の荒廃都市、生活環境の破壊都市である。

鵜沼も五十年前と現在の写真と対比させて、こうやって眺めると生活環境の破壊は歴然とする。建物は一派になった。井戸水は水道となり交通は便利となった。道も舗装された。暮らしよくなったはずである。こんなはずではなかったと人々は首をかしげる。こんなはずではなかったのである。懐古趣味だけではなくいま一度歴史について

真剣に考えてみたい。

一本の松を切る事が歴史を切断するとゆう重大な誤認からいま一度生き方を考えてみたい。

(一) 片瀬山から片瀬川を眺める。

片瀬川はかつて詩人金子光晴は

「金波きらめく」と詩った。

松の中に点々と家がありまさに

緑の中に家があった。さぞかし

空気もよく小鳥達もまた住み

よかった事であろう。

古くはは元寇の時北条時宗は元

の使者をこの下の龍の口で斬った。

また日蓮を斬らんとして失敗した。

元の使者の墓はすぐ眼下の常立

寺にあり。日蓮をとじこめて

おいた土牢もここにある。ここに仏舍利

が建てられたのは終戦后である。

誤

大船に連絡するモノレールもまだ十年と経っていない。

昭和三十年頃片瀬山はまだ一面、

鬱蒼たる松山であった。病後、病

を養っていた私がこの山で撮ったゆかた

がけの写真があるからたしかである。

それを大番、牛ちゃんのモデルであった

合同証券の佐藤和三郎がこの山を買

い占めゴルフ場とした

何百年間かかって育った松はアット言

う間もなく切り倒されブルトザーの下敷

となった。ゴルフ場はアット言う間につぶ

れ、その後観光ホテルが建ったがこれ

もつぶれた。私はこの観光ホテルに一回

だけ泊った事がある。昭和四十年頃

であると記憶する。

この松の名残りは龍口寺から鎌倉山にぬけるバスの通に僅かながら残っている。

その後片瀬山は一部を市が買収して片瀬山公園となったがあとは片瀬山団地とゆう一大団地となった。

あの佐藤和三郎こそその後日本列島破壊の先駆者であったような気がする。バイタリターとかエネルギーとかは欲望の権化に他ならなかったのである。

あの松山だけでも市が保存していたらと私など悔やまれてならない。

蝉が降るように鳴き足もとには赤い弁慶ガニが歩いていった。私はその松林の中で破壊されていた自分の青春をとりもどしていたのである。

私はこんこんと湧く清水を眺めていたあの頃と僅か二十年しか経ていない年月のへだたりがどうしても信じられないのである。

そして数百年の自然の歴史、いや歴史そのものを変えてしまった凄まじさにこの高台からしばし直視することのできない戦りつを覚えるのである。

（二）鵜沼橋

引地川はしばしば流れを変えた。しかし富士の姿は動かなかった。動かないと言う表現はおかしいが、いくらかけ変えても富士とその橋はコントラストがとれていた。

しかし、今は鵜沼橋周辺から富士は動いてどこかえいつてしまったみえなくなってしまうのである。引地川から分流した鯉取川は

今の鵠沼海岸地区のほぼ中央を貫流していた。川の名の如く鯉が

手でとれたのである。

江ノ電の鵠沼で下車しひんやりとする松林を通りぬけて海岸につくところに鯉取川があった。その清流と梅の青さが松林と美事に調和していたのである。その鯉取川の上流は埋立てられ舗装されてしまった。日石クラブから鵠沼新道につながる道が一部巾広いので気づいている人がいてもこれがかつてその清流だと知る人は今は少い

私達がその道路に桜を植えた時車の邪魔になると反対した人がいた。

今はそんな人もかなり反省しているようである。引地川は藤沢市と住民達必死の努力で三、四年前から魚影がもどってきた。約十年ぐらい前だったたしか「引地

川に魚をとりもどし子供達に釣

りを」と訴えたら私は狂人扱いされた。

その狂人扱をして笑った人達が釣り糸を

たれ自慢げにしている。

河口に網を打つ馬鹿者まで現れたの

でさすがこれは追い払った。

鵠沼橋を見下ろすスロープ状の歩道

橋は一三四号線の車が激しいため

約一千万円をかけて作った自転車も乳

母車も通れる橋である。

この上からみるとさすが富士もみえる。江ノ

島も三浦半島も片瀬山の仏舎利

も眺める。

しかし、この自然にふさわしい建物は

もうほとんどない。車また車の洪水で

ある。どんな洪水にも鵠沼橋は流

されないけれど、五十年前のなにも

かもはどこかに永久に流れてしまっていた。

(四) 鵠沼の松林

鵠沼を語るのになによりも欠かせないのが松林であつた。

辻堂海岸を経て茅ヶ崎にはいま

だ松林は残存しその面影をとど

めている。残念なのは引地川散歩道

の松林である。

二人の少女が並んで歩いている後姿

の写真があるが昭和三十年頃ま

で残っていたが本当に惜しい話し

である。一体何のために切り倒して

しまったのかと思う。

今、引地川にたった一本だけその頃の

松がある。八部公園の近くの反対側

にある。松はその花粉の香りは

強烈であるが健康によい。特に

結核に効くと言はれてその松風の

中に療養生活を送った人は多い、
第一号に高瀬笑子氏の

われを送りて日の出橋まで来し人

浜の暮色につゝまれにけり

歩みきて林の径に暮れにけり

潮騒の音近くひゞき来

とゆう和歌をのせたがきつとこの友人

か恋人は病を養っていたのではないかと

思う。昭和六年頃

この近くにあまり家はなかった。きつと

別荘か病院であつたのだろう。

いま一枚 写真の無惨さは眼を

覆うばかりであつた。

今、藤沢市は必死にこの散歩道の

復元につとめている。しかし、この松林

だけは私達が生きている間に眺める事

は不可能となつた。

(五) 浜見山団地

ススキや月見草が乱れ咲いた
浜見山は今数万の人口を有す
る浜見山団地となった。

二、三十年前こんな広大な展望
があつたと知る人は少い。

特に団地っ子はこのような遊び場
があつたことなど知らずどんな夢
をみているのであろうか

神奈川県は団地のそばに辻堂海岸公
園を作つたがこれも自然の姿とは
ほど遠い。私の中学生の頃の思い出は
この上空で空中戦があり B 29 が
白煙を吐いて辻堂沖に落ちて
いった事とグラマン戦闘機の破片を
この辺でひろつた事である。

あとがき

一昨年後半から私の家に不幸が
続き申し訳けなく思っていたがこの語
る会の会報を出せなかった

六日に私が両足を骨折し

昨年一月二十九日に父を、三月三日
に高橋姉三さんを 七月二十三日に
祖母を失った。

祖母は片瀬生活を含めて約四十年間
鵜沼でくらし、高橋姉三さんも鵜沼
に残存する大邸宅の女主人として三十年
間鵜沼に住んだ。ともに八十八才であつた。

私はこの二人から聞いた鵜沼の話
も数々ある。父は鵜沼に住みたいと熱
望していたがそれを果せず土浦で死
んだ。松林は鵜沼そっくりだった。
又少しづつ綴っていきたいと考えている。

鵜沼と私

飯田心美

鵜沼に定住したのは戦後廿三年で、まだ三十年そこそこしか月日は経ていないが私と鵜沼との関係は半世紀近くになる。

いまから五十年前、まだ中学生時代に知り合った同級生の家が藤沢で、彼に招かれて泊りがけで遊びに行き藤沢から江ノ電に乗ったり、また歩いたりして片瀬えくり出した。

同行五、六人、いづれも東京下町の育ちとて、広々とした浜辺や松山の風景がたまらない魅力だった。

その頃の江ノ島は、板を張った栈橋で人が渡るたびに橋がゆれて面白かった。

また、大潮になると島まで砂地がつづいて橋の下を歩いて行った。

また山本橋あたりからボートを出して川上を遡り江ノ電鵜沼辺まで漕いでいった。当時の鵜沼は松の多い別荘

地で広い庭の邸が多く所々に桃畑があり一ぱいだった。

どこかのんびりした野趣の中に風情があり心身ともにすがすがしく落着けた。

以来すっかり鵜沼が好きになつてしまった私は成人後も毎夏こゝに家を借りるよ

うになり、戦災にあつてからは東京を引

払つて鵜沼に移り住む気持がいよいよ

濃くなつた。戦前のそうした静けさは

消えつゝあるが、それでも昔の名残はいまもある。



川上清康

会報第三号に「鵠沼と私」を詳しくのせていただきましたので重ねて記しませんが、何と申しても藤沢は先祖伝来の土地であり、私自身特に鵠沼海岸は幼児より親しんだ所であり懐かしい思い出が一ぱいであります。今の鵠沼を見るにつけても海岸の松林や防風、松露、又いたるところに咲いていた撫子や、そこらを這いまわっていたかに等が思い出されどこかの一隅に昔のまゝの鵠沼がある様な想にとられます。



太田太郎

鵠沼は戦前（一九三五年頃）から度々殊に夏季訪問したがまさか、自分のような野バン人が居住させて貰うことになるとは夢にも考えていませんでした。通勤で忙がしい頃は気がつかなかったのですが、病氣退職後は鵠沼公民館のおかげで毎日を楽しく送る事ができました。行事が常に新しく変化に富んでいるので、雨天以外はせっせと通ったものです。沢山の良き先輩に接する事も出来たし、過去六十余年の智識に優る立派な智恵を得る事も出来ました。五十二年度から残念ながら片瀬に移住してしまいましたが、地理的にも歴史的にも切りはなせない両地でありますし、これからも増々せっせと鵠沼公民館に通勤させて頂いて余生を充実したいと考えております。

何卒越境入学をお許し下さる

ようせつにお願い申し上げる次第
でございます。



佐藤 清

私共は東京都文京区の山の手と下町の接点にある街に永く住み、小学生の頃から小学唱歌「鎌倉」や「真白き富士の嶺」を歌い続け湘南の地にあこがれを持っていました。

日頃、老後の生活は白砂青松の江ノ島に見える海のある街でと念頭していました。幸、二十余年前東急不動産Kの分譲地として現在地を得る事が出来以来移り住むようになりました。

東京では嫁は日常の買物に商人の呼びかけの「奥さん」が耳馴れているのに鵜沼銀座では「奥様」の呼びかけに御屋敷の奥方になったような面映い思いを私に語ったり、所用での東京からの帰り小田急電車の新宿駅から我勝ちの無秩序

な乗車状態に悩まされての思いがしばしばなのに藤沢駅からの買物帰りの江ノ島方面への乗車にはいまだかつてそんな思いを体験したこともなく乗車の方々の人柄、気風、教養ある文化人であられる事を知り自戒しています。当地に居住してよかったと喜ぶと共に益々愛着を深めるばかりです。私共はこの鵜沼を終焉の地と定め、この第二の郷土とその文化を勉強のため藤沢市史を購入したり郷土史の講座に参加したりしてより多く学びたいと心がけています。日頃活発な鵜沼公民館の文化活動に敬意を表し益々御発展を祈っています。



富永速雄

昭和三年の五月頃東京の某大に入学したとき名古屋から入ってきた同級生が江ノ島を遊覧したいと言うので連立って出かけた江ノ島で記念写真を撮したが、江ノ島をだけは残ってその何君は十年前に死亡し、記念だけが残った。

彼が死去する数年前に鵜沼に住みたいと言うのであちこち物色したがとうとう適地がなく結局西鎌倉の分譲地の一番高い所（三井分譲地の境介に接する）で鵜沼から江ノ島、茅が崎方面が一望できる土地を買い入れ住居を構えて数年間住んだから、一応満足してこの世を去る事ができたと思われる。僕は某社勤務中（昭和三十五年頃）東京の騒しと公害から逃れて

老後生活地を静かで暖く、空気の良い湘南地方と決めて、鎌倉逗子、葉山方面も調査研究してその欠点に気がついたので天災、地勢、環境、施設、交通塩害等々すべて出来ると考えられる現在地を探し出して永住地と決めたのである。

太平台の一番高い松林台地ですから鵜沼方面はもちろん相模湾を望めます。

裏山からは大山丹沢山塊も眺められ日々快適にくらしています。

これら湘南方面を調査し見聞した予備知識を活かし役立てたいと思いません。不動産業を営んでります。

その余暇を利用して、此処十数年来海外旅行をして各地の見聞を広めて居ります。今春は、イラン、イラク、トルコ

ギリシャ、エジプトの古代文明とその
遺蹟を探りたく来る三月二十四日出
発します。

一方市民俳句会にも参加し一石と
号して駄句って居ります。

（石の魅力にひかれ世界各地から集め
ており一石と号しました。）御来遊
下されば光栄です。



月高く

鵠沼の里に

かゝりけり



藤沢市鵠沼公民館（鵠沼海岸二丁目一〇番三四号）

藤沢市鵠沼公民館内

鵠沼を語る会発行